

2024年度の事業が始まりました。支援員の皆様には、日頃より多大なご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

2016年6月、更生保護女性会・BBS会・保護司の有志により「須賀の寺子屋」準備会が立ち上がって以来、もうすぐ満8年です。

2020(令和2)年度より、学校で学んだことが、子どもたちの今日の生活を豊にし、将来の生きる力を支える学力となるようにと「新学習指導要領」が改訂され、昨年度までに小学校から高等学校まで実施されています。

そこで、今回は「新学習指導要領」を基に須賀の寺子屋学習教室で意識しておきたいことを中心にお伝えいたします。

新学習指導要領 (抜粋)

4.教育課程の実施と学習評価、(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、③学びに向かう力、人間性等を育成する教育の実現で、以下のように示されています。(中略)

資質・能力の三つの柱のうち、学んだことを人生や社会に活かそうとする「**学びに向かう力、人間性等**」。実際の社会や生活で生きて働く「**知識及び技能**」。未知の状況にも対応できる「**思考力、判断力、表現力等**」。社会に出てからも学校で学んだことをいかせるよう、三つの力をバランスよく育みます。(中略)

「**学びに向かう力、人間性等**」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。具体的には主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等があり、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものです。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれます。

「**学びに向かう力、人間性等**」の育成に当たっては、他の二つの柱以上に、児童生徒や学校、地域の実態を踏まえて指導のねらいを設定していくことが重要です。学習指導要領の総則では「児童(生徒)の発達の支援」の項目において、児童生徒一人一人が興味や関心などが異なることを前提に、児童生徒が自分の特徴に気づき、よい所を伸ばし、自己肯定感をもちながら日々の学校生活を送ることができるようにすること、また全ての児童生徒が学校や学級において豊かな人間関係の中で有意義な生活を築くことができるようにすることの重要性を示しています。

また、学習指導要領においては、児童生徒が自主的に学ぶ態度を育み、学習意欲の向上に資する観点から、以下のとおり見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動について示しています。

児童（生徒）が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

「学びに向かう力、人間性等」の育成は幼児期から成人までかけて徐々に進んでいくものですが、初期の試行錯誤段階を経て、様々な学びの進め方や思考ツールなどを知り、経験していくことが重要です。とりわけ小学校中学年以降、学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切です。

（後略）

神奈川県公立高等学校入学者選抜制度について

学習指導要領改訂を受けて、令和6年度入学者選抜から、入学者選抜制度が改善されました。

その中で、選考の資料として、調査書の評定や観点別学習状況の評価を活用するとともに、実施したすべての検査の結果を用い、改訂された学習指導要領において明確化された育成を目指す資質・能力のうちの「**学びに向かう力、人間性等**」の観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分を「**学びに向かう力**」とし、「**学びに向かう力**」については、中学校の観点別学習状況の評価のうちの「**主体的に学習に取り組む態度**」により評価するとされました。

『主体的に学習に取り組む態度』とは

具体的にどのようなことなのか、早稲田大学教職大学院教授の田中博之氏は「『主体的に学習に取り組む態度』の学習評価の在り方」という文書の中で、文章記録の評価基準の例文章記録の評価基準の例として下記の10点を挙げています。

1. 学習目標を自分が身に付けるべき資質・能力として書いている
2. 間違いの修正や書き直しが書けている
3. 友だちとの対話や交流を学びに生かした様子を書いている
4. もっとよい学び方はないか考えて書いている
5. 学習の計画や見通しをもって取り組んでいる様子を書いている
6. 考えや文章、作品を推敲したり改善したりした様子を書いている
7. 間違えたり失敗したりしてもねばり強く取り組んだ様子を書いている
8. 振り返りで自分の学習の成果と課題を書けている
9. 自分の学習を改善する具体例を書いている
10. 新たな疑問や学習課題を書いている。

引用元：「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の在り方

須賀の寺子屋学習教室として

平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究で以下の例が挙げられています。

保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。

例えば・・・

- ・ 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が深い。
- ・ テレビ ビデオ DVDを見る時間などのルールを決めている。
- ・ テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- ・ 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- ・ 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- ・ **自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。**
- ・ 地域や社会に貢献するなど、人の役に立つ人間になることを重視している。

「主体的に学習に取り組む態度」「自分の考えをしっかりと伝えられるようになること」は、既に学習教室の中でも取り組んでいます。小学生学習教室では、学習の始めと終わりに「今日の学習目標とふり返し」を生徒自身の考えで書いています。中学生でも年度の始めに学習目標を決めて、毎回学習計画を立てています。自分の力だけで計画しにくい場合は支援員と相談しながら立てていますが、この用紙に書く行為が「言語能力の育成」にも繋がる重要な行為の一つにもなっています。

学校教育の中だけではなく、家庭や寺子屋でも、日頃から**自分の考えをしっかりと伝えられるようになり、何事にも主体的に取り組む態度**がこれからの社会で求められるスキルの一つになっていることを意識し、支援員の皆様と共有して、より良い子どもの支援活動に取り組んでまいりましょう。

参考資料

[4. 教育課程の実施と学習評価:文部科学省 \(mext.go.jp\)](http://mext.go.jp)

[神奈川県公立高等学校入学者選抜について - 神奈川県ホームページ \(pref.kanagawa.jp\)](http://pref.kanagawa.jp)

すらすら <https://surala.jp/school/column/2730>

以上
(文責 大野 文)

「主体的に学習に取り組む態度」「自分の考えをしっかりと伝えられるようになること」の**ヒント**

- ・ 生徒が、授業教科の学習に興味や関心が起こるような話題を用いてみる。
- ・ 生徒の疑問や突っかかり、何かヘン？を引き出す。
- ・ 生徒が意見や考えを話し出したら、最後まで焦らせずに、確認しながらゆっくり・しっかり聞く。
- ・ 話しの順序や言葉遣いが間違っていたら、生徒の言葉を繰り返しながら生徒自身が気付くように、正しい語順や言葉遣いになるようにサポートする。
- ・ 支援員が先んじて答えや解き方を教えず、仮説を立てるよう導く。
- ・ どうしたら生徒の希望が可能になるか、課題の解決策を一緒に考える。

他にも良いヒントがありましたら、ぜひ教えてください。